

支 部 長 挨 拶

日本気象学会北海道支部の第19期の支部長に就任してから1年が経ちました。昨年度の当支部が遂行した事業をみてみますと、総会、研究発表会は勿論のこと、夏季大会は12回目を行い、今回は特に気象に限らず、札幌市青少年科学館の御協力を得て「星空ウォッチング」といった、あまり話を聞くことの出来ない分野の話題を取り入れられました。また、支部気象講演会が10月14日帯広市の勝毎ホールで「十勝の気象と生活」というテーマで行われました。特別講演会はアメリカ National Severe Storms Laboratory の Dr. D. S. Zrnica が、支部機関誌「細氷」も40号が発行されました。



今年度は、通常行われている活動の他に、支部気象講演会は市民大学講座「新しい気象学」(釧路湿原の大気環境と北海道周辺の地震活動)として釧路市で開催される予定です。この活動に対しては、平成7年度文部省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表(B)」が充てられます。北海道支部の今日までの地道な努力の一端が報われたとみるべきで、画期的なことだと思います。しかし、この予算については来年度以降も配当されるかどうかは現在のところ未定です。積極的に計画調書を提出し、継続できるようにしたいと思っております。尚、市民大学講座「新しい気象学」、また今年度の第13回夏季大会「新しい気象」に「地震はなぜ起こる」と「小惑星」の講義を取り入れられました。昨今の活発な地震活動や、数少ない宇宙関係の講義も聴きたいという多くの参加者の声を反映したものであります。皆様のご理解をいただけますと幸いです。

今年度も会員皆様方の積極的な御協力をお願いいたします。

日本気象学会北海道支部
支部長 菊地 勝弘

(北海道大学大学院理学研究科教授)